好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

ソニック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

【Ｎコード】
Ｎ４２４４Ｙ

【作者名】
ソニック

【あらすじ】
舞台はあの人気テーマパークユニバーサルスタジオジャパン。
ユニバーサルスタジオでこの小説を書いた作者が好きなアニメとゲームのキャラが
逃走中に参加する、そして誰が逃げ切れるのか。

逃走者紹介（前書き）

逃走者の紹介です

逃走者紹介

スマブラX
マリオ
ルイージ
ピーチ
クッパ
ワリオ
リンク
トゥーンリンク
ドンキーコング
ディディーコング
サムス・アラン
フォックス
ファルコ
ウルフ
ロボット
ゲーム&ウォッチ
ポポ
ナナ
マルス
アイク
ピカチュウ
ルカリオ
ピット
カービィ
メタナイト
ネス
リュカ

スネーク

ソニック・ザ・ヘッジホッグ
ソニック
テイルス
ナックルズ
エミー
シャドウ
シルバー
エスピオ
ベクター
チャーミー

ロックマンX
エックス
ゼロ
アクセル

ドラゴンボール
孫悟空
ベジータ
トランクス（未来）
ピッコロ
孫悟飯
バーダック
ブロリー
パラガス

ぷよぷよ!!（20周年version）

アルル・ナジャ
アミティ
あんどうりんご
ラフィーナ
アコール先生
シグ
クルーク
フェーリ
レムレス
ささきまぐろ
ドラコケンタウロス
サタン
ルルー
ウィッチ
シェゾ・ウィグィィ
リデル

新機動戦記ガンダムW（TV阪）
ヒイロ・ユイ
デュオ・マックスウェル
トロワ・バートン
カトル・ラバーバ・ウィナー
張五飛（チャンウーフェィ）

絶体絶命でんじゃらすじーさん
じーさん
孫
校長
ゲベ（8頭身）

ボボボーボ・ボーボボ
ボーボボ
首領パッチ
ところ天の助

デッドライジング
フランク・ウエスト

逃走者紹介（後書き）

次回本編スタート。

ゲームスタート（前書き）

さぁいよいよ本編です。

ゲームスタート

午後５時００分
ユニバーサルスタジオジャパン

そこを貸切でとあるゲームが開始したその名も

逃走中

ここユニバーサルスタジオで１５０分間逃走を行う、

逃げ切れば賞金が貰える、ただしハンターにつかまれば賞金は０となる。

ハンターの人数は４体。

そして今参加者は４体のハンターが封印しているハンターボックスの前にいる、そしてハンターボックスの前にボタンがある。

そのボタンは押した１分半後にハンターが放出するボタンである。

そして今そのボタンを押す代表者がランダムで決まった、その代表者は。

デュオ「へっ？俺。」

デュオだ

そしてデュオはハンターボックスの前にいてそのボタンを押す

デュオ「よーーし、じゃあ押すぜ！！」

デュオの声と共に他の逃走者は逃げる準備をしていた。

ポン、

デュオがボタンを押したと同時に全逃走者はハンターボックスから走って逃げた。

なおハンターはさっき行ったように押して1分半後に放出する。

逃走者はそれぞれに散った。

デュオ「なんで俺を代表として選んだんだよ。」

何で自分を代表にしたかと思ってるガンダムのパイロット。

そこへ

りんご「あれ？デュオ君じゃない。」

デュオ「よぉりんごか、偶然に会ったな。」

りんご「本当偶然だね。」

デュオ「ホントだな。」

りんご「偶然会ったんだし一緒に行動しない？」

デュオ「ん一緒にか、あぁ別にいいぜ。」

りんご「ありがとうデュオ君。」

デュオ、りんごと合流

ソニック「一緒に頑張ろうぜアミティ。」

アミティ「うん♪」

この2人はすごい仲良しでやっぱり一緒に行動している

悟空「へへ、ワクワクすっぞ」

逃走中でワクワクしている最強の男

そして

プシューーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

ドンッ！！

ボタンを押してから1分半が立ち4体のが解き放たれた。

4体のハンターはすぐさま逃走者確保へと向かう

プルルルル

ヒイロ「メールか。」

エックス「ボタンを押してから1分半が立ち・・・」

アイク「4体のハンターが解き放たれた・・・」

孫「これより逃走中を開始する。」

ゲームスタート

ゲームスタート（後書き）

感想をお願いします。

Part－1（前書き）

いよいよ始まった逃走中、誰が逃げ切れるのか。

part－1

遂に始まった逃走中

７２名の逃走者の中で逃げ切れる者は誰だ。

ゼロ「ついに始まったか。」

ベジータ「カカロットより長く生き残ってやる。」

逃走中でもライバル視を持つサイヤ人の王子

天の助「どこかに隠れねぇと。」

隠れ場所を探すところてん。

天の助「お、いい隠れ場所があったぞ。」

そして見つけた

アクセル「せっかく逃走中に参加したんだからせめて長く生き残らなきゃね。」

果たして彼は長く生き残れるだろうか

フランク「カメラマンの底力見せてやるぜ。」

自信満々の超人カメラマンその常人離れした体力と強靭的な精神力卓越したサバイバル術によってゾンビの住みかとなったショッピングモールから無事生還を果たしたその能力は逃走中ではどう活躍するのか。

天の助「うわ、ハンターが居るよ。」

天の助が隠れているとこの近くにハンターがいた

天の助「よし、通り過ぎたな。」

ハンターが通り過ぎたと思い移動をする

そして

ハンター「！！」

見つかった

天の助「ぎゃぁぁぁ

天の助はスピードを上げて逃げるがハンターの足は早いそして距離は縮まっていくそして

天の助「ぎゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！」

ポン

ところ天の助確保残り71人

天の助「ガーーーーン」

プルルルルル

トロワ「確保情報・・・」

シャドウ「ジュラシックパーク付近で・・・」

ドラコ「ところ天の助確保。」

ボーボボ「やっぱあいつダメ野郎だな。」

アミティ「早くも1人捕まっちゃったね。」

ソニック「あぁ、しかも最初はやっぱあいつか。」

デュオ「えぇ、もう早くも1人捕まっちまったのかよ。」

りんご「うん、天の助君が確保されたみたいよ。」

デュオ「あいつか、最初に確保されそうな感じしてたしな。」

続く

part－1（後書き）

次回最初のミッションが開始する。

Part－2（前書き）

最初のミッションが始まる

part―2

数分後

突如エリア内に映し出された7つのハンターマーク

プルルルル

ワリオ「お、メールだ。」

ファルコ「今度はなんだ。」

ヒイロ「ミッション1、ミッションが来たか・・」

ナックルズ「エリア内にの巨大ハンターマークが映し出された・・・・」

アクセル「残り１３０分までにマークを消さなければ・・・」

ルルー「残ったハンターマークと同じ数のハンターを放出する・・・・」

フランク「マークは全てで７つ・・・」

カトル「マークは１から７までナンバリングされており・・・」

ルイージ「順番に消さなければならない急ぎたまえ、えぇ！？てことは７体増えれば合計１１体に！！」

ミッション

ハンターマークを消去せよ

これより１３０分までに７つのハンターマークを消さなければ残った数と同じハンターが放出される

ただしハンターマークを消すには１から７まで表示されているマー

クの切り替えレバーを下ろさなければならない

ハンターマークを消さなければ最大7体のハンターが放出される

ヒイロ「任務了解。」

ゼロ「勿論行くぜ！！」

シルバー「よし、行くか！！」

フランク「行くぜ！！」

ルイージ「行こう。」

ワリオ「行かねぇよ。」

パラガス「勿論私はいかない。」

行くか行かないかは自由だ。

デュオ「どうする？ここはやっぱ行くか。」

りんご「うん、勿論行った方が・・・てハンターが居るよ！！」

デュオ「マジかよ！！」

2人はいち早くハンターを見つけ移動をしただが

ハンター「！！」

見つかった

デュオ「ヤベェ見つかっちまった、ここは二手に分かれるぞ！」

りんご「うん！！」

そして二手に分かれた、そしてハンターが標的にしたのは

りんご「嘘！こっちに狙ってきた！！」

りんごだ

このままではりんごは捕まってしまう

と、その時

？？？「こっちだ、こっちに隠れろ！！」

りんご「えっ！？」

突如隠れ場所から声が聞こえりんごは戸惑ったが声に従いりんごは隠れた

ハンターからの視界から見失ったようだ

そしてりんごを助けた声の人物は

エックス「無事で良かった。」

エックスだ

りんご「エックス！？じゃあさっきの声はエックスだったの。」

エックス「あぁ、君がハンターに追いかけられたのを見かけそこで声を出して助け出したってことになるな。」

りんご「でもどうしてそんなことを、下手をすればエックスまで捕まるとこだったんだよ。」

エックス「俺は誰かを助けるためならハンターに見つかるのを承知で君を助けたんだ。」

りんご「そうか、ありがとうエックス。」

エックス「とりあえず一緒に行動しよう。」

りんご「うん。」

りんご、エックスと合流

りんご「それと友達になってくれる？」

エックス「あぁ、喜んで。」

りんご「ありがとう♪」

そしてりんごはエックスと友達になった

りんご「ねぇ？あれハンターマークじゃない。」

エックス「ん、ほんとだしかもナンバリングは1だ。」

なんと2人は偶然ハンターマークナンバリング1の停止レバー見つけた

エックス「よ～し引くぞせーの」

ガシャン

ナンバリング1停止

残り6個

りんご「やったね！」

エックス「あぁ。」

ｐａｒｔ－２（後書き）

残り６個停止出来るか

part―3

プルルルルルルル

五飛「メールか、ハンターマークナンバリング1停止、早いな。」

マルス「て事は、残り6個か。」

ナンバリング停止はメールで知らされる

マリオ「よーし俺もミッションで活躍してやるぜ！！」

やる気満々のスーパースター

だが彼の後ろの近くに、ハンターが

まだ彼は後ろにいることを気づいていないそして、

ハンター「！！」

見つかった

マリオ「ん、うわヤベェハンターだ！！」

マリオが逃げた先に

じーさん「あ、ハンターに追われてる。」

じーさんがいた、そしてじーさんは壁に隠れた。

マリオ「ヤベェ！行き止まりだ！！」

マリオが逃げた先は行き止まりだ。

マリオ「うわぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！」

ポン

マリオ確保残り７０人

マリオ「最悪だ」

ゲーム界のスターここに散る

プルルルルル

カトル「確保情報だ」

アコール先生「ジュラシックパーク付近にて・・・」

エスピオ「マリオ確保。」

ルイージ「えぇ！？兄さんが！！」

まぐろ「マジで！？マリオが！」

トランクス「まだ驚きが隠せない、あの人が早くも捕まるなんて。」

全員驚きが隠せないようだ

ラフィーナ「あらデュオさんじゃない、どうしたんですのそんなに息切らして。」

デュオ「ラフィーナか、さっきハンターに追われて全力で逃げたからゼェゼェ、すっげぇ疲れてんだよゼェ。」

ラフィーナ「そうだったんですの、所でミッションに行く所なんですけど一緒行きません？」

デュオ「あぁ、いいぜ俺もミッションに行くつもりだったからな。」

デュオ、ラフィーナと合流

アミティ「あ、あったハンターマークナンバリング2を見つけたよ。

」

ソニック「よっしゃ、でかしたぜアミティ！」

２人はマークナンバリング２を見つけた

ソニック「これが停止レバーか、良し引くぜ、せーの」

ガシャン

ナンバリング２停止、残り５個

ソニックアミティ「「イェーイ」」

２人は息動向のハイタッチをした

Part－3（後書き）

残りの５つも停止出来るか

Part－4（前書き）

ハンターマーク残り５個

part－4

プルルルルルル

フォックス「ハンターマークナンバリング2停止残り5個。」

アイク「意外と早いな。」

ウルフ「だったら次消すのはナンバリング3か。」

マークは番号順に消さなければならない

レムレス「あれ、君はバーダックじゃないか。」

バーダック「おう、レムレスじゃねぇか、どうした。」

レムレス「ハンターマークを消しに行くとこだけど君も行くのかい。
」

バーダック「当たり前だろハンターが増えちまったら厄介だからよ。
」

レムレス「じゃあ、僕が3番を消すから君は4番を消してくれない
かな?。」

バーダック「お前が3番で俺が4番を消すか、よっしゃ引き受けた
ぜ。」

レムレス「ありがとう。」

そして2人の後ろにハンターが

だが2人は気づいていない

そして

ハンター「！！」

見つかった

バーダック「あん？、おいヤベェぞハンターが来た！！」

レムレス「え！？嘘！！」

そして2人は気づき二手に分かれて逃げた

そしてハンターの標的は・・・

バーダック「おいおい、マジかよ！！」

バーダックだ

バーダック「クソッタレが、このまま捕まってたまるかよ！！」

バーダックはスピードを上げ建物を利用して逃げた

ハンター「・・・・」

うまく逃げ切れたようだ

バーダック「へッ、ざまぁ見やがれ」

レムレス「ふう、危なかった、ん、あれはナンバリング３。」

レムレスは偶然ナンバリング３停止レバーを見つけた

レムレス「ラッキー、じゃあ早速レバーを引くか、せーの」

ガシャン

ハンターマークナンバリング3停止残り4個

プルルルルルル

アクセル「なになに、ナンバリング3停止残り4個」

ドラコ「え？もう残り4個まで行ったの早っ。」

エックス「もう3つも停止か。」

りんご「この調子だとミッションクリアになりそうだね、ん？ねぇエックス。」

エックス「どうした？りんご。」

りんご「あれ、パラガスじゃない？。」

2人はパラガスを見かけた

パラガス「良し、ここなら見つからないな」

エックス「おい。」

パラガス「うぉ！？なんだエックスとりんごか。」

りんご「何やってるの？。」

パラガス「実は隠れ場所を探していたのだ」

りんご「へぇ、そうなんだ。」

エックス「なぁ、ミッションは行かないのか？」

パラガス「行かん」

りんご「どうして？」

パラガス「だって、怖いんだもん。」

2人（うわぁぁぁ

part－4（後書き）

感想をお願いします

Part－5（前書き）

ハンターマーク残り４個

part－5

現在ハンターマーク残り４個

時間残り１３７分

１３０分経過まで残り７分前

メタナイト「ハンター放出まで残り７分、そしてハンターマークは残り４個か」

時間とマークの残りを確認するメタナイト

そして彼の後ろにハンターが

まだメタナイトは気づいていない

ハンター「！！」

見つかった

メタナイト「ん、しまった、まさか後ろにいたとは。」

メタナイトはハンターに気づき逃げるが短距離で見つかってしまい
距離が縮まっていく、そして

メタナイト「うわぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！！」

ポン

メタナイト確保残り６９人

メタナイト「不覚・・」

プルルルルル

ワリオ「お、メールだ・・」

ゼロ「バック・トゥ・ザ・フューチャー至近にて・・・」

カービィ「メタナイト確保、え！？嘘、メタナイトが。」

ゼロ「次に消すことが出来るのはナンバリング４か。」

急いでナンバリング４を探しているゼロ

その頃

エックス「チョ、行きたくないもんて、何子供みたいな言い方してんだよ気落ちわりぃな！！」

りんご「いい大人で親がそんなこと言ってどうするのよ。」

パラガス「だって、迂闊に動いたらハンターに見つかったってしまうし。」

エックス「だからって、んな情けねぇ言い方するな！！」

情けないことを言うパラガスを怒鳴るエックス

そしてりんごはエックスの肩を叩いた

りんご「エックス、もう行こうこんな言い合いしたって拉致がないよ。」

エックス「そうだな、じゃあなパラガス。」

そして2人はパラガスと別れた

牢獄

メタナイト「くそ～」

メタナイトは捨て台詞を吐きながら牢獄に入った

マリオ「お前も捕まったのか。」

メタナイト「そういうマリオこそ以外だぞまさかお前が早く捕まってしまうとは。」

マリオ「逃げれそうだったんだけど行き止まりで捕まったんだよ。」

天の助「俺だって最初に捕まったんだぜ悔しい。」

Part－5（後書き）

感想をお願いします

Part－6（前書き）

ハンターマーク残り４個

part－6

ハンターマーク残り４個

現在１３５分ハンター放出まで残り５分

ゼロ「ナンバリング４一体どこに、ん、あれはナンバリング４遂に見つけたぜ。」

ゼロはようやくハンターマークナンバリング４を見つけた

ゼロ「レバー・・・これか。」

ガシャン

ハンターマークナンバリング４停止残り３個

ゼロ「良し。」

プルルルルル

ウルフ「お、なんだ・・・」

ドンキー「ナンバリング４停止残り３個。」

シャドウ「ということは、今消せるナンバリングは5か、よし5番を消すか。」

ナンバリング5を消しに行くシャドウ

クッパ「ハンターマークはどこに・・・」

ハンターマークを消しに行くクッパ

だが彼の目の前にハンターが

そして

ハンター「！！」

見つかった

クッパ「て、おわぁぁぁ

プルルルルル

悟飯「確保情報だ・・・」

ウィッチ「スペース・ファンタジー・ザ・ライド付近にて・・・」

ナックルズ「クッパ確保残り６８人。」

ルイージ「うわぁ、クッパまで。」

ブロリー「あのダメ親父はどこにいるんだ～」

父パラガスをダメ呼ばわりする伝説の超サイヤ人

ブロリー「あのダメ親父はバカでどうしようもないほど情けなくおまけに変態だからな。」

ソニック「おっと、前にハンターがいたか、ここは隠れようぜアミティ。」

アミティ「うん。」

仲良しコンビの2人はハンターをいち早く見つけさっそうと隠れた

part－6（後書き）

感想をお願いします

Part－7（前書き）

ハンターマーク残り３個

part―7

ソニック「まさか前にハンターがいたとはな、ん、あれ校長じゃねぇか。」

アミティ「しかもまだハンターに気づいていないよ早く気づいて。」

校長「逃げ延びてやるのじゃい。」

まだハンターに気づいていない

そして

ハンター「！！」

見つかった

校長「ん、ぎゃぁぁぁ

校長は気づき逃げるがやはりハンターとの距離は縮んでゆく

そして

校長「オビャビャビャビャビャーー

校長確保残り６７人

校長「・・・・・・・」チーン

失神状態と灰になってる

ソニック「あ～あ結局捕まった、しかも失神状態と同時に灰になってるぜ。」

アミティ「ていうかオビャビャビャビャビャビャーて何？（汗」

プルルルルル

アクセル「確保情報がまた来たよ・・・」

ドラコ「セサミーストリート４ーＤムービーマジック付近にて・・・
」

ファルコ「校長確保。」

孫「校長先生が捕まった。」

じーさん「や～いバーカバーカ（爆笑。」

ゲベ「あんなミジンコ以下知ったこっちゃない。」

シャドウ「これかナンバリング5は。」

シャドウはナンバリング5を見つけた

シャドウ「ならば、さっさと解除するか。」

ガシャン

ハンターマークナンバリング5停止残り2個

シャドウ「フン」

プルルルルル

ゼロ「お、ナンバリング5停止残り2個か。」

エックス「これであと2つか、ん?あれ校長か。」

りんご「言われてみれば、とにかく行ってみよう。」

2人は失神状態と灰になった校長に近づいた

エックス「お～い校長どうした大丈夫か。・・・・」

校長「・・・・・・・」
しかもリアル顔

りんご「どう？」

エックス「駄目だな、完全に失神状態になっていて、おまけに灰になっているまるで燃え尽きたかのようだ。」

りんご「そうなの、よほど捕まったのがショックだったみたいだね。」

果たして誰が逃げ切れるのか

Part－7（後書き）

感想をお願いします

Part－8（前書き）

ハンターマーク残り2個

part－8

１３２分

ハンター２体放出まであと２分

ヒイロ「ハンターマーク発見」

ナンバリング６を見つけたヒイロ

ヒイロ「レバーはこれか、」

ガシャン

ハンターマークナンバリング６停止残り１個

ヒイロ「任務完了」

プルルルルル

リンク「お、ハンターマークナンバリング６停止」

ベクター「残り１個」

サタン「もう残り１個か」

ピッコロ「ん、ハンター、ここは隠れるか」

ハンターをいち早く見つけたピッコロ
そして

ハンター「・・・」

ピッコロ「良しもう行ったか」

うまくやり過ごせたようだ

クルーク「自首は５０分ぐらいになったらするか。」

自首を考えるクルーク

だが彼の後ろにハンターが

そして

ハンター「！！」

見つかった

クルーク「ん、うわぁぁぁ

プルルルルル

ウルフ「あぁ？、確保情報・・・」

トロワ「ジョーズ付近にて・・・」

リデル「クルーク確保、クルークさんが確保されちゃいました。」

アルル「あぁ、クルークが捕まったよ」

フランク「お、ハンターマーク発見。」

ナンバリング7を見つけたフランク

フランク「停止レバーはこれだな、よっと」

ハンターマークナンバリング7停止ミッション成功

プルルルルル

エスピオ「ハンターマークナンバリング7停止結果」

シェゾ「ミッション成功」

サムス「ハンターの放出はエックスあんどうりんご、ソニック・ザ・ヘッジホッグアミティ、レムレス、ゼロ、シャドウ・ザ・ヘッジホッグ、ヒイロ・ユイ、フランク・ウエストの9名によって阻止となった。」

フェーリ「さすがレムレス先輩だわ。」

デュオ「ヒイロの野郎やりやがったな。」

アクセル「エックスとゼロもやってくれたんだ。」

パラガス「ふぅ、やっとミッション成功か、私は別の場所で隠れるか、てあれ？ここどこ」

なんとパラガスは迷子になった

Part－8（後書き）

感想をお願いします

part－9（前書き）

次のミッションが始まる

part－9

ゲーム時間残り１３０分

現在の逃走者６６人

そして新たなミッションが行われる

プルルルルル

ピーチ「ミッション、またミッションが来たわ・・」

チャーミー「これより残り１００分までに・・・」

五飛「自分以外の逃走者と出会い・・・」

ベジータ「携帯のカメラ機能で・・・」

ゼロ「２ショット写真を撮り・・・」

ドラコ「送信しなければ・・・」

ゲベ「強制失格となる・・・」

トランクス「なおクリアした逃走者とクリアしてない逃走者との２ショットも可能だ。」

ミッション２

２ショット写真を送信せよ

これより１００分までに２ショット写真を撮り送信しなければ強制

失格となる

それを阻止するには逃走者同士の2ショット写真を撮り送信をしなければならない

そしてクリアしてる逃走者とクリアしてない逃走者との2ショットも可能だ

ヒイロ「任務了解、他の逃走者を探し、2ショット写真を撮り送信をする」

フランク「これは誰かを探さないとな～」

エックス「てことは今俺はりんごと一緒にいるから2ショットが撮れる」

りんご「ラッキー早く撮ろう」

エックス「せ～の」

カシャ

エックス「送信」

エックス、あんどうりんご、ミッションクリア

ソニック&アミティ「せ～の」

カシャ

ソニック「送信と」

ソニック・ザヘッジホッグ、アミティ、ミッションクリア

デュオ「よっと」

デュオ・マックス・ウェル、ラフィーナ、ミッションクリア

ラフィーナ「デュオさん、一旦別々に行動しません？」

デュオ「そうだな第一、ハンターに見つかる可能性が高いから、その方がいいかもな」

ラフィーナ「ではごきげんよう」

デュオとラフィーナは別々に別れた

シェゾ「トランクスか！！」

トランクス「シェゾ？丁度良かった写真を一緒に撮る人を探してたんだ」

シェゾ「あぁ、こっちも丁度良かった早く撮ろうぜ」

トランクス「あぁ」

カシャ

トランクス「送信」

トランクス、シェゾ・ウィグィィ、ミッションクリア

ドラコ「ゼロ！？丁度良かった！！」

ゼロ「ドラコか」

ドラコ「一緒に写真撮って！！」

ゼロ「あぁ、俺も丁度いいと思った所だからな」

ドラコ「じゃあ撮るよ、せ～の」

カシャ

ドラコ「送信」

ドラコケンタウロス、ゼロ、ミッションクリア

ドラコ「ふぅ、良かった～、ありがとうゼロ」

ゼロ「なぁに、こっちも助かったぜ」

現在クリアしている人数
１０人
全員成功まであと５６人

全員成功なるか

Ｐａｒｔ－９（後書き）

感想をお願いします

Ｐａｒｔ－１０（前書き）

ミッション２現在クリアしている逃走者は１０人

part－10

シルバー「ヤベェ、早く誰か探して写真を撮って送信しねぇと強制失格になってしまう」

急いで他の逃走者を探しているシルバー

そこで

ドンッ！！

誰かとぶつかった

シルバー「痛ぇ～、ごめん大丈夫か・・・て、アルルじゃねぇか」

アルル「痛たたた、あ、シルバー」

シルバー「悪ぃな、ミッションクリアに急いでたからよ、ほれ」

シルバーは手を差し伸べアルルを立たせた

アルル「ありがとう、ボクも急いで他の人を探していたから、こっちもごめんね」

シルバー「とりあえず、写真撮ろうぜ」

アルル「そうだね」

シルバー「よっと」

カシャ

シルバー「で、こいつで送信と」

シルバー・ザ・ヘッジホッグ、アルル・ナジャ、ミッションクリア

シルバー「これでミッションクリアしたな」

だが2人の後ろにハンターが

だが2人はまだ気づいていないそして

ハンター「!!」

見つかった

アルル「ん、シルバー、後ろにハンターが居るよ!!」

シルバー「マジかよ、ヤベェ！！」

2人は気付き逃げる、そして逃げる2人の前に

ワリオ「ちょ、何ハンター連れ込んでんだテメェら！！」

ワリオが巻沿いに食らった

そしてハンターの視界はワリオに変わったそして

ワリオ「ぎゃあああああああああああああああああああああ！！！！！」

ポン

ワリオ確保残り６５人

ワリオ「シルバー、アルル、テメェら覚えてやがれ！！」

大激怒だ

プルルルルル

ウルフ「確保情報・・・」

デュオ「スヌーピー・プレイランド付近にて」

ベジータ「ワリオ確保」

シルバー「やっぱ捕まったか」

アルル「ボクらのこと相当怒ってると思うよ」

シルバー「だな」

フランク「お、ここにいるのは悟空か」

悟空「お、フランクじゃねぇか」

フランク「早速だが写真を撮ろうぜ」

悟空「おう、」

フランク「行くぞ」

カシャ

フランク「で、これで送信」

フランク・ウエスト、孫悟空、ミッションクリア

フランク「じゃあな」

悟空「あぁ、まだどこかで会おうぜ」

牢獄

ワリオ「くそったれ～シルバーとアルルめぇ」

マリオ「お、お前も捕まったのか」

メタナイト「どうやら話によればシルバーとアルルが追われそこでワリオが巻沿いになったらしいぞ」

ワリオ「くっそ～」

天の助「ワリオの奴相当シルバーとアルルの事怒ってんじゃん」

果たして全員クリアとなるか

ｐａｒｔ－１０（後書き）

感想をお願いします

Part－11（前書き）

ミッション２
クリア人数現在１４人

part－11

悟飯「あ、まぐろさん」

まぐろ「悟飯君じゃないか君はまだクリアしてないのかい？」

悟飯「はい、ミッションクリアをしようと思って急いでたんです、一緒に撮ってくれませんか」

マグロ「オッケー」

悟飯「では行きますよ」

カシャ

悟飯「これで」

孫悟飯、ささきまぐろ、ミッションクリア

悟飯「ありがとうございました」

まぐろ「こっちもありがとう、じゃあね」

アクセル「誰かいないのかな～早く急がないと強制失格になっちゃうよ」

アコール先生「あ、アクセルさん」

アクセル「あ、アコールさん、丁度良かった、お願い一緒に写真撮って」

アコール先生「はい、いいですよ」

アクセル「じゃあ、いくよ」

カシャ

アクセル「送信と」

アクセル、アコール先生、ミッションクリア

アクセル「ありがと」

エックス「皆クリアできるといいんだが、ん？またパラガスが」

りんご「でもなんか泣いてない？」

エックス「どうせろくなことじゃねぇと思うけど行ってみるか」

そして2人はまたパラガスのとこまで行った

パラガス「うわ～ははは～（泣」

エックス「お～い」

パラガス「あ、エックスとりんごまた会ったな」

りんご「今度はどうしたのそんなに泣いて」

パラガス「実は・・・ここどこ？」

りんご「え？ここはハリウッド・ドリーム・ザ・ライド付近だけど」

パラガス「あぁそうか・・道に迷ってたのだ」

2人「・・・・・・・・・・」

そして2人はパラガスの事を冷たい視線で見てこう思った
こんな奴がよく生き延びたな、そして何がしたいだお前と思ってい
る2人

ブロリー「ここにいたか、ダメ親父」

そして3人の前にブロリーが来た

パラガス「ブロリー！！」

ブロリー「なんだ、エックス、それにりんごお前ら2人もいたのか、それと親父がどうかしたのか」

エックス「あぁ、そうなんだけどよ・・・」

りんご「実は迷子になったらしいのよ」

ブロリー「チッ、このダメ親父が（怒」

パラガス「そんなとこよりブロリー一緒に写真を撮ってくれないか」

ブロリー「しょうがない、このミッションは絶対やらなきゃいけないからな」

ブロリー「じゃあ、撮るぞ」

カシャ

ブロリー「送信」

ブロリー、パラガス、ミッションクリア

エックス「じゃあ俺らも行くか」

りんご「そうだね」

エックス「じゃあなブロリー、パラガス」

エックスとりんごはブロリーパラガス親子と別れた

そしてブロリーとパラガスも別々に別れた

part－11（後書き）

果たして全員クリアとなるか？
感想をお願いします

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4244y/

好きなアニメ・ゲームキャラクターで逃走中

2011年12月1日01時50分発行